

トンネル点検に新技術

浦幌で平田建設 走行計測しAI解析

トンネル内での走行計測



【浦幌】国道38号の上厚内トンネルの補修工事を請け負う平田建設（十幌町、長谷川雅毅社長）は4日、新技術の「一般車両搭載型トンネル点検システム（トンネルモニタリングサービ

ス）」を使って、トンネル内の走行車線側の壁面を撮影した。同システムの利用は管内で初めて。工事発注者の帯広開発建設部や建設業者ら20人が参加した。

リコーが提供する同システムは、一般車両に装着して走行計測できる。計測走行速度は時速40〜60^{キロ}程度で交通規制は不要。高精細な画像撮影装置を用い、AI（人工知能）によるひび割れ解析ができる。

撮影後は、点検調書支援ソフトを利用して変状展開図や写真台帳などが作成される。走行撮影により危険な高所作業や現場での野帳記録がなくなり、省力化が図られるという。

同社では狭いトンネルの中で安全に作業することを模索しており、同システムを採用した。同社の平岡亮介工事部長は「生産性と安全性の向上のため利用していきたい」と話していた。

（巴子紳一通信員）